

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 16

2015年12月15日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

創立 70 周年を迎えた黎明会です

今野志保子

社会福祉法人黎明会は平成 27 年 10 月 25 日に創立 70 周年を迎えました。終戦直後、上野池之端に於いて、住まいを失い疾病や飢餓に苦しむ人々の救済を開始したところから黎明会の歴史は始まります。小平のこの地に拠点に移したのは 1957 年昭和 32 年ですから、この地にあって 59 年が経過するわけです。

黎明会は医療機関、障がい者施設、高齢者施設を運営しています。生活できる施設は、自己完結的（他の施設のサービスを受けずに）終身利用することも可能ですが、現在は、利用する方の意向に沿って通過型スタイル、あるいは、通いのみなど、利用法のバリエーションが豊かになってきています。

このことは黎明会という施設群の垣根が低くなっていることを表しています。通所利用が増えることは、地域に住まう方々とのパイプが繋がることですし、訪問診療、訪問看護、訪問介護、訪問給食等が出向いて行く事でさらにパイプは太いものになります。相談機能も充実させています。

近年は、福祉や医療・介護のサービスを必要とされる方と繋がるだけでなく、資格を取りたい方のための講座や黎明会が関わりを持つ分野の勉強会の開催など、近隣の方々と接触できる窓を増やしています。

地域とどう関わるか、地域から見て有効な社会資源になるためにはどうすればよいのかは、30 年来の課題で、施設というハードの開放から始まり長い間取り組み続けた道です。

まずは、広報宣伝活動をしっかり行うこと、そして耳を澄ますこと、この地域で、この地域



のためにやれることが、まだまだあるはずですよ。人がいきいきと暮らすためには、ここに一緒に暮らす人々と知り合い、世代を超えた交流が必要かと考えます。小平西地区ネットワークに参加し協働することで、つながりを強く、広くしていくヒントを頂戴しています。今後とも、ご最員のほど、よろしく願い申し上げます。

西地区ネットワークって何？

2012 年 3 月 17 日に白梅学園大学関係者が様々な NPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加しませんか？

小平西地区・地域ネットワーク第 19 回懇談会の報告

第 19 回懇談会は 9 月 29 日（火）18 時より白梅学園大学 I 棟 13 教室にて開催されました。

はじめに白梅学園短期大学保育科の小松歩さんより「遊びごころと地域づくり - 子ども期の遊びの重要性を考える」として、この間に取り組んできた調査やワークショップについて報告をしてもらいました。

現在、子どもたちが自由に遊ぶ場が制限されている中で、遊びの内容も貧困になり、そのことが子ども期の発達にマイナスの影響を与えているのではないかと問いかけています。遊びのワークショップで専門家に遊びを教えられて、遊びの楽しさを実感しながら、あらためて遊びの重要性を認識してきています。

人間にとって遊びは「余暇」を楽しむというだけでなく、その成長発達に欠かせないもの、とりわけ小さいうちは遊びから能力の発

達、身体の技、集団性など全てのことを学ぶ基本となっています。

調査の中で白梅幼稚園の卒業生に遊びについて尋ねた中で、昔遊んでいたことを思い出して子どもとの遊びを通じての交流がすすむのではないかという期待も出されていました。

懇談会の後半は恒例のブロックごとの集まりです。第一ブロックは少なかったのですが、その他のブロックは参加者も多く、地域ごとの取り組みなどの相談もあって、時間が足りないほどの議論となりました。この懇談会にもっと多くの地域の皆さんに参加していただくことができたらと願っています。

ニュース 15 号を発行して、参加者にはお渡しし、近くで渡せるところには届けていただくことにしました。そして更に残ったものは郵便局のユーマールで送らせていただきました。

武蔵野、雑木林、ダイバシティ（多様性）、そして小平西ネット

～白梅学園大学の白梅祭「コミュニティ・カフェ」に匂い立つ香り～

西田 統（家族地域支援学科学生の家族）

華やかでにぎやか、楽しそうな学生たち、いかにも“学園祭らしい活気”あふれるキャンパスの玄関周辺。そこから、ほど遠い位置の F 棟にある「コミュニティ・カフェ」という名の落ち着いた展示コーナーに、今年も足を運びました。学舎の教室にすぎないのですが、「コミュニティ・カフェ」は、何故か“武蔵野”を感じます。

家族・地域支援学科在籍の娘がご縁で、毎年のように「カフェ」で、小平西地区地域ネットワークの活動報告を拝見させていただき参考にさせていただいています。今年は、細谷さん、森山先生、関谷先生と一緒に、“お茶”させていただきました。細江さんはエンジニアとのことですが、地域ネットワークのリーダーとしてもご活躍とのこと。「カフェ」の展示で精力的な活動を拝見する度に、小平西地区の方々やその人材の底力には、勇気をいただいています。

法理も専門性もかなわない“地域の力”とは、

「共感だけで動けること」だと痛感しました。その「共感」は、至ってシンプルなもの、「快適に過ごし（生活し）たい」という地域の総意なのです。住み慣れた環境が“心地よく”、“安心なもの”であることといった、実にわかりやすいものなのです。その「快適」を作り上げるには、地域の人材の多様性を排除せずに、皆が認め合い、皆を取り入れて力とし、皆の生活の満足として還元することなのでしょう。

“武蔵野”といえば雑木林が象徴。雑木のごとく不ぞろいな多様性、春の新緑は心を躍らせ、夏の日差しから木陰で守り、秋には色づきを楽しませ、冬には足元をキラキラと霜柱で光らせながら“土香る季節”を待つ。今は神奈川県に住んでいますが、育ちが所沢である私にとって、“武蔵野”を感知する感度は、今も健在でした。地域の多様な人材が武蔵野の雑木の如く、地域の生活を支えていく。“武蔵野”の香りを匂い立たせる「カフェ」で過ごすちょっと贅沢な時間でした。

「分かった会」に参加して

藤 美穂

私は、昨年夏からこの勉強会に参加しています。「市報こいだいら」に掲載されていた

「講師ボランティア募集」の記事を、たまたま目にしたのがきっかけです。最初は、「私に出来るのだろうか」としばらく悩みました。でも、勉強を頑張りたいと通ってくる生徒たち、その生徒たちの意欲を応援する講師の方々、そして、「分かった会」の趣旨が素晴らしいと思い、私にもお手伝い出来ることがあるかもしれない、「やらない後悔より、やる後悔」「何事も経験」と、自分で自分の背中を押して勉強会への参加を決めました。

最初は私の方が緊張して生徒たちと接していましたが、回を重ねる毎に生徒たちも心を開いてくれるようになりました。「分かりやすかった。」「前より英語が好きになってきた。」生徒たちの声を聞くと、とても励みになります。私は、本来、勉強とは楽しいものだと思っています。今まで知らなかった事を知る喜び、分からなかった問題がちょっとしたヒントや見方を変えることで出来るようになる面白さ、そんな楽しさを伝えていけたらと思います。

私もそうでしたが、思春期というのは自分を見つめる時期であり、人と比べ、自分の足りないところや欠点ばかりに目が向きがちです。でも生徒たちみんな、それぞれが良いところ、光るところを持っています。その自信の一つを、「分かった会」の場で見つけてくれたらいいなと思っています。

「今日もこの勉強会に来て良かった。」そう生徒たちに思ってもらえるよう、私も日々勉強です。これからも、講師の方々に助けいただきながら、生徒たちの笑顔、未来のために、少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思っています。



(写真：ある日の「分かった会」の風景)

(注)：「分かった会」の現状

2012年12月に誕生してから今年12月24日で丸3年、ちょうど「開講100回」を迎えます。

12月20日現在、中学生16人、小学生8人の計24人の生徒が学んでいます。小川公民館の2つの部屋を小・中の生徒に分かれて勉強しています。そのうち中三の生徒は7人で、来年1~2月の受験に向けて頑張っています。

11月5日に、市長に「分かった会」や市の地域学習支援施策について「要請書」を出し、その回答が文書で17日に届き、19日には超党派の市議会議員9人（ほとんど生活文教委員）が視察と懇談を兼ねて小川公民館を訪れ、西ネット・「分かった会」と市議団との懇談会を開きました。市の回答や今後の方向性について率直な意見交換をして有意義でした。(奈良勝行・記)

ご近助（所）力をテーマにした防災訓練を実施しました！

小平市立障害者福祉センター・内田 伸

去る10月10日(土)、小平市の地域防災計画で2次避難所に指定されている小平特別支援学校を会場に、第6回十三小地区防災訓練『地域防災は、ご近助(所)力から』を実施しました。主催の十三小地区防災ネットワークは、同地区内における顔の見える関係づくりを目的に活動しているネットワークで、地区内の団体や活動する人たちが構成されています。



ネットワークの中心的な役割を担っているのは、十三小地区民生委員児童委員、NPO法人サポートクラブあすなろ、小平市立障害者福祉センターの3者ですが、近年では、会場である小平特別支援学校の先生方や、小平市と災害協定結んでいる白梅大学の学生の皆さんにも参加をいただき、地道な地域防災・減災活動として実践しています。



当日は、避難行動要支援者の避難訓練、地域の支援者による炊き出し訓練、小平消防署小川出張所による寸劇を交えた防火に関する講話、煙ハウス体験などを行いました。難しいことではなく、「基本的なことを、くり返し体験することや実践することが万が一の時には役立つはず」を合言葉に、毎回プログラムを考えています。

小平市は、大きな河川はなく、大きな高低差もなくとても平で、比較的地盤も硬いと言われているまちです。そんな小平市の場合、大きな地震が発生した時に一番怖いのは大規模な火災です。何度も聞いた話かもしれませんが、災害時に限らず、如何に火を出さないかを身につけておくことが、日頃からできる備えではないかと考え、今回は取り組みました。

大きなことはできませんが、小さな取り組みをコツコツと続け、新たな仲間づくりや顔の見える関係づくりを実践していきたいと思っています。「地域防災は仲間づくりから」を旗印に、これからはがんばっていきたくと思っています。『食料や水をどんなに備蓄しても、命が無くては食べることも飲むこともできません、今一度、自分たちにできる、身を守るための備えをみんなで考えてみませんか?』

「ほっとスペース きよか」の今

古瀬悦子（民生児童委員）

世代間交流の地域の居場所として1年半前から開所に向けて準備をし、去る5月18日の開所以来居心地の良い場所を目指しスタッフで工夫を凝らし進めてきました。開催日を月に2回から毎週月曜日に増やし、小さなイベント(ラッキョウづくり、草鞋づくり、お菓子作りなど)を実施、少しずつ地元根付いてきた感のある昨今です。

毎週月曜日の例会は11時半からスタッフが用意する野菜中心の家庭料理を昼食として「食べながらの交流」のスタートです。定食さながらのお料理は好評、舌鼓を打ち料理談義やら日常のことなど話の花が咲きます。人生の大先輩から、時には白梅大学の学生さんの新鮮な息吹も…広範囲な話題に初耳あり、お国柄あり、懐かしさあり、味わい深い人情の機微に触れる事ができます。例会の最後には広島さんのハーモニカ伴奏で昔懐かしい唱歌や歌謡曲の合唱、参加者が一体感に浸るひと時です。歌は心に染み子どもころや故郷を思い出し、胸を熱くすることも、涙ぐみそうな哀愁が漂うこともあります。

9月例会ごろより11月末のバザーに向けて作品作り、おしゃべりをしながら手を動かし、出来栄に一喜一憂、楽しい時間でした。皆さんの隠れた得意技を発揮していただきました。



11月29日(日)本番、お天気にも恵まれ皆さんの協力の手作り品がお客様をお迎えする準備が整いました。クリスマス・マスコットの色とりどりのサ

ンタさんは表情も様々、愛着が湧きます。縮緬のお豆のストラップ、テッシュケース、毛糸のたわし、マフラー、ソックスカバー等々愛情込めて作った品が並びます。衣類、食器、雑貨など所狭しと並びました。今年が目玉は仙台からの新米、お野菜、冬支度か、お野菜の売れ行きは上々、昨年並みの売り上げもあって手づくり品を吟味しながら会話も弾み、笑顔が一杯、まずは盛会に終わったのかなと思っています。

今月は年末最後のイベント「餅つき」が企画されています。つきたてのお餅と豚汁をほおぼる嬉しそうなお子さんの顔が今から目に浮かぶようです。昔の伝統に直に触れ、楽しんで頂けること間違いのないと思っています。残念なのは「ほっとスペースきよか」の場所が分かりにくいと言われて足が遠のいている方、ご自身の都合とかみ合わなくて止む無く参加を断念される方等もあり、新規の利用者が伸びないことにあります。



チラシや口コミ、森田さんのフェイスブックなどでの紹介で手を尽くしているものの、伸びない状態が一番の課題かと思っています。「コミュニケーションは百薬の長」とか、地域の方々がざっくばらんに話してできる、いつも和やかに、「行って良かった！、楽しかった！、次回も来るからね」と元気なお声上がるようスタッフ一同、月に一度の会議で知恵を出し合い、先輩の「さつき」さん他を倣ってさらなる

大きな輪と絆が繋がる「きよか」を目指して頑張りたい

と思います。

居場所づくりは楽しく、「挨拶」・「笑顔」が大切

「東京高齢者のつどい」で発表して

第4ブロック 渡辺 穂積

11月16日（月）午後、杉並公会堂で開催された「第27回東京高齢者のつどい」に参加しました。約800人という大勢の高齢者が集いました。この集いは高齢者の生活向上や平和のために平成元年から毎年開かれているもので、今年のスローガンは「戦争する国にさせない、いのち輝く未来のために」。私は、事前に依頼されて、「団体・地域の活動報告」のプログラムの中で「居場所のある地域づくり」と題して西ネットと高齢者クラブ富寿美会のことについてパワーポイント・スライドを大型スクリーンに映しながら15分間報告しました。

報告内容は、私は今、小平市高齢クラブ連合会の一単位クラブ「富寿美会」の会長と小平西地区・地域ネットワークの活動の中で立ち上げたコミュニティサロン「ほっとスペースさつき」の代表を仰せつかっていることか

員数は高齢者が増えているのにも関わらず減少の一途をたどっています。全国老人クラブ連合会でも5年間で百万人の増員運動を展開しているのもその表れです。

その様な状況下で富寿美会は着実に会員数を延ばしています。それは高齢クラブに対する考え方と対応を、『会とし小さな輪の中で仲良しクラブ的な状態で活動するのではなく、会と言う輪(枠)を取り払い「何時でも」「誰でも」自由に参加出来る居場所(場)と考える』としたからだと思います。

高齢クラブの活動基本方針は「健康」「奉仕」「友愛」の三つの柱から出来ています。その中の友愛は更に「訪問友愛」と「コミュニティ・カフェ」に分かれています。最近は特に高齢者の皆さんを外に出してもらおうことを進めています。

2012年3月、白梅学園大学が小平西地区・地域ネットワークを立ち上げられ、その活動の中で、「さつき」を作ることが出来ました。コミュニティ・カフェとは地域社会の中で「たまり場」「居場所」となっている場所と定義づけられています。さつきがそれにあたると思いますが、今まさに高齢者・障がい者・学生・児童等全ての人が集い世代間交流をしながら楽しんでいます

以上のようにコミュニティサロンはもとより物理的な形のない会であっても、場として地域の皆さんに提供できることをお伝えし、私自身これからも頑張っていきたいと思っています。



(写真：開会イベントのコーラス)

らその双方から「居場所のある地域づくり」についてお話ししました。いま高齢クラブの会

10月に開かれた日本世代間交流学会第6回全国大会の報告

草野篤子

日本世代間交流学会第6回全国大会が10月3日(土)に、追手門学院大学大阪城スクエアで、開催されました。大会テーマは、「これからの世代間交流—より良い生き方を目指して」です。基調講演は、上智大学名誉教授のアルフォンス・デーケン氏による「世代間交流と死生観」という人間の生と死に関する哲学についてでした。シンポジウム4件、20件以上の自由研究発表、自主企画ラウンドテーブル2件、ポスター発表17展示などがあり、充実した学会となりました。

内容的には、一例をあげますと、教育現場における世代間交流、子どもの暮らしと世代間交流、子育て支援、国連のユネスコスクールとしてのESD(Education for Sustainable Development)活動、世代間交流が児童の高齢者意識に与える影響の10年間にわたる比較、療法的音楽活動を通じた認知症高齢者と幼児

の世代間交流、看護大学生と地域高齢者の協同学習、未来遺産活動に学ぶ世代間交流、地域包括ケアシステムにおけるコーディネーターとの連携、世代間交流施設のデザイン教育、25年にわたる東京東村山市の里孫制度、そしてわが西ネットが運営する中学生の学習支援「分かった会」についてなど、多岐にわたっています。

人はこの世に生を受け、人生の最後には死を迎えます。社会で、次の世代を産み育てるといった「命」の継承を通じて、世代を超えた文化の継承が行われていきます。これはまさに、人間の命の存続と引継ぎであり、社会の継承と発展をもたらします。そこにおける世代を超えた世代間交流は、経済、社会、文化、教育、福祉、医療制度などをも作り上げ、人々に大きな影響をもたらしています。

小平12小祭り「楽縁祭」に参加して～第2ブロック

NPO法人こだいら自由遊びの会 中川聡恵

私はこだいら自由遊びの会の一員として、今回の12小祭りに参加させて頂きました。白梅西ネット第2ブロックの関谷先生、芳井さん、足立さん、栗原さん、曙光園の大島さん、黎明会の今野さん、上宿小青少対等の皆さんと一緒に、森のオルゴール制作コーナーを担当しました。

森のオルゴールとは、正方形の板に釘を打ち、板の周りに囲いをつけ、その中にどんぐりを入れて釘に当たるどんぐりの音色を楽しむものです。板は森に見立てていて、そこに自分の好きな森を描き、その上でどんぐりが音を奏するため森のオルゴールと名付けられています。そして釘に当たるどんぐりの音色はとてもかわいらしく柔らかい音で、また釘の太さによって音色が異なるため、少しずつ異なる音が心を和ませてくれます。

この森のオルゴールはこだいら自由遊びの

会でも時々制作するのですがとても好評で、12小祭りでもたくさん子ども達にその楽しさを知ってもらいたいと思い、今回制作コーナーに出させて頂くことにしました。

そしてお祭り当日は小雨が降る生憎の天気の中、多くの人に来て頂き、用意した板は完売となりました。制作作業には30分程の時間を



要とするため、釘打ちに苦戦する子ども達にはとても大変な作業だったのではないかと心配しましたが、出来上がると「わぁ～こんな音がするんだ」「頑張ったかいがあった」「家に持って帰って飾ろう」という声が聞かれ、ホッとすると同時に、こちらも喜びを共有させて頂きとても嬉しかったです。

制作には下は4歳の子どもから大人の方まで参加して頂き、スタッフを含めるとその場には幅広い年代の多世代が集っていました。子どもの釘打ちを頑張る姿に大人が頑張れ～と応援し、手伝う大人の上手さに子どもは流石だなと感じる。子どもの自由で幻想的な感性に大人が素敵だなと感じ、大人の芸術的な作品に子どもがきれいだなと感じる。そんな多世代が交流出来るイベントに参加させて頂き、充実した一日となりました。

イベントの余韻に浸りながら後片付けを終えると、上宿小青少対の会長菊地さんが温かいどんを振る舞って下さいました。その日初めて出会う方々もいましたが、同じイベントをやり切った仲間という空気に包まれながらの体に染み入る美味いというどんでした。

今回の製作作業を通じて、こだいら自由遊びの会にも興味をもって下さる方がいらっしゃいました。私達の会では、子どもが自然に触合いながら自由にあそび、それを地域の多世代で見守っていく子育てを目指しています。そんな私たちにとって今回の12小祭りでは地域の方と交流出来、沢山の笑顔に出会えることが出来、これからも地域の多世代の交流を大切にしていきたいと改めて感じさせて頂きました。12小祭りに参加させて頂き本当に良かったです。ありがとうございました。

コミュニティサロン ほっとスペースさつき 第7回ミニバザー

2015年11月29日(日)10時～15時の時間帯で、第7回目のミニバザーが行われました。当日は、朝から日差しも暖かく、7回目とはい



(写真：野菜の食べ方を説明)

え毎回天候に恵まれ嬉しい限りです。また、準備中の9時半頃から三々五々と人が集まり、入口付近に並べたお目当ての関谷農園の野菜、湯河原からのみかんなどを皮切りに、奥に入

る中で複数に品物を購入して頂きました。今回は、諸般の事情により、ほっとスペースきよかのミニバザーと日程が重なりましたが、第一小学校のPTAの方々や、仕事や学校等の都合で火曜日・木曜日にお越しになれない方の姿もあり、近況報告もありました。また、スタッフの方々もローテーションを組ん

でいるため、一同に集まる機会は少ないですが、この日は複数人が揃い間違いなくガヤガヤの一時でした。



(写真：ちょっと一休み 甘酒を)

品物を提供して下さる方、購入して下さる方々に感謝しながら、来訪者もスタッフの方々も、コミュニケーションが図れた数時間でした。

＜予告案内＞

「ほっとスペースさつき主催第7回学習会」
日時：2016年1月23日(土)13時30分～15時30分

小平の歴史⑤

小川村の開発と入村者

蛭田廣一氏（元小平市市史編纂課長）

①岸村と小川九郎兵衛

岸村に住んでいた百姓である小川九郎兵衛という人間が、たまたまこの青梅街道沿いに村を開きたいと言って開発が許可された、まさにそこに住んでいるのは百姓達ですよ。武士階級ではない。そういう人たちのために、村を作るためには水はなくては生活できないので、水道事業ですよ、玉川上水から直接小川分水を引いて、水路を掘って飲み水にした、そういうことをやろうとしたこと、そしてそれを幕府が許可したことによって開発ができた、ということに思い至らないと、歴史というのはいけないということです。

これは宝暦2年に書かれたものと推測されていますが、明暦2年から18年後に書かれた地図なんですね。開発当時に近い時代に書かれた地図（絵図）なんで、非常によくわかる。その南側に書かれている青いのが玉川上水で、そして上にあるのが野火止用水、という形になります。真中を通っているのが青梅街道、ここには箱根ヶ崎街道と書いてあります。先ほど説明しましたが、石灰を運ぶ作業道路としてこの道は作られましたから、青梅というよりも箱根ヶ崎へ行く道路というのが小川の意識としては強かったということです。

そしてこの南の方、今の立川街道ですね、これは小川の三叉路になります。ここに日枝神社、それが18年後の地図にはっきり書かれています。小川橋のところ立川へ行く道、これは八王子街道って書かれているんですね。当時は小川からすると最寄りの宿場町が八王子だったのです。この真中が平井街道、平井というのは五日市のちょっと北側にある場所です。そういう要所要所で、説明した以外にもいっぱい道が交差しているのが小川村であったということです。説明したところと言えばこれが鎌倉街道ですね。このところで×印があって、本多街道を横切って、これが鎌倉橋のあたりです。そこをわたって南へ行く道が書いてあります。ですが今問題になってい

る府中街道、それがここに書いてありますが、ずっとクランクのままです。そして北にまっすぐ行く道それが所沢へ行く道です。なんと小川村を開発した当初からそうなのです。しかも所沢へ行く道は、くどうの辻のところ野火止用水に橋がかかっているんです。つまり府中街道というのは農作業のための道であって、開発当初から主要な道だったわけではないんだということがこの地図からはわかるんです。

そうしますとまさに小平というのは交通の要所だったということです。小川九郎兵衛というのはそういうことをよく知っていて、開こうとしたこの小川村というのは交通の要所で中継ぎ往還の場所であったのでものを運ぶ役割を果たしますからここに村を拓かせてくれという条件で、願いを出した。なおかつ一番大事なのは、先ほど言った石灰です。石灰をどうやって運んだか、道路を作ったということは話しましたが、どうやってということはいませんでした。今のようにトラックで運ぶわけにはいかないわけですね。そんなものはないわけですから。人が運ばなければなりません、人が運ぶには重すぎます。こんな土の入ったものを運んだらいくらもいかないうちにばててしまう。運搬手段として馬が使われました。カマスに石灰を入れて、振り分け荷物にして馬の背に積んで、それを人が引っ張っていくという形で、馬がそういう意味で大事な運搬手段となりましたから、小川村に入村してきた方達は、必ず馬を持って入ってきますということが条件になる。そしてここに定住しなさいということで、家を建てなさい、ということが条件になっているということです。

②入村請書

残り時間が少なくなってきましたが、皆さんのテキストにも入っている文書について説明します。当時の人たちは和紙に墨で書いて、手書きで必要な事項を記録し、人に差し出す

ことによって意思決定をしていったということがわかります。これは面白いことに、裏書もあるんですね、裏に文字が書いてあるので読めないのです。ここになんて書いてあるかという「長兵衛」というんですが、差し出した入村請書ですよということが分かるように書いてあるんです。こういうものがどうやって保存されてきたのかということを考える必要があるのです。和紙に書かれた手紙って、時代劇なんかでみるとくるくと追って表から中身が見えるようにしてあります。外から見えないと読んでもらえないからそこに何の手紙かということを書くんです。長兵衛から北入村請書だよということが裏書してある。表に書いてあることを読んでみますと、「一札を差し上げます」とあり中身がその後に来るわけです。

候文で難しいのですが、何が書いてあるかというこの長兵衛というのは小川新田の開発のために出ていきたいと言っている、そこで我々が請人（証人）として確かなものであるということを保証するので、またこの者は入村したら公儀のお勤めやきちんと法律を守り、間違いのない暮らしをするので、保証する。それに背くようなことがあれば我々がどこまでも出て行って弁明しますということが最初に書かれているのです。最後の1つ書きですが、馬を持って村に入ってきますよ、役に立ちますよということを条件に村に入ってきているのです。次の頁に行きまして、最後の1つ書き、当時禁教として江戸時代はご法度でしたので、キリスト教の宗門ではありま

せんよ、ということを保証する一文が書かれています。そういうことで、この入村請書というのは身元がいかにも確かなことであるということを保証するとともに、入村に支障のないことの担保、家を作り引っ越すことが書かれています。

私の叔父も農家なんですが、泊りがけで出かけることがない人でした。子どものころからたまには温泉につかってくればいいのにと思っていました。決して泊りがけでは旅行に行かない。それってまさにこの当時から教え込まれた習慣、そして脈々と戦後生まれの人たちでさえ、そういう因習に縛られて生きてきたのだという気がするのです。つまり習慣とか、町や村のおきてというものがいかに重要かということ、時代が変わってこんな時代まで人の心の奥に大きく行動を左右する規範として刷り込まれている原点は何だったのかがこの入村請書などから分かります。そういう点から、習慣って簡単に破れるようで深いところでなかなかむずかしいということがわかるのです。

<入村請書>明暦2（1656）年11月～

- ・身元の保証
- ・入村に支障のないことの担保
- ・家を作り引っ越すこと
- ・公儀の役を勤めること
- ・屋敷を空けないこと
- ・馬を持ち傳馬継ぎの役を務めること
- ・キリシタン宗門ではないこと

（続く）

小平 13 小青少対祭りを楽しむ

11月8日（日）小平13小の青少対祭りに参加しました。当日は生憎の雨で、グランドでののびのびとした取組みにはなりませんでしたが、体育館や玄関前のテントなどを活用して様々な模擬店を楽しむことができました。開会式では丸山幼稚園の太鼓が圧巻で、子どもたちが楽しそうに演奏している姿が印象に残っています。



西
ネッ
トと

してはこの3年間 13 小の青少対祭りに関わってき
10



ましたが、今年は保育科の学生が9人ほどお手伝いとして参加し体育館でチョコバナナの完売に貢献できました。

また体育館では障害者福祉センターが取り組んでいる「ボッチャ」という遊びが人気で、終了時間を越えるまで子どもたちが並んでいたのが印象的です。この「ボッチャ」はパラリンピックの正式種目として認定されており、障がい者を含めた多くの人々が一緒に楽しめるものとして期待されます。

(瀧口記)

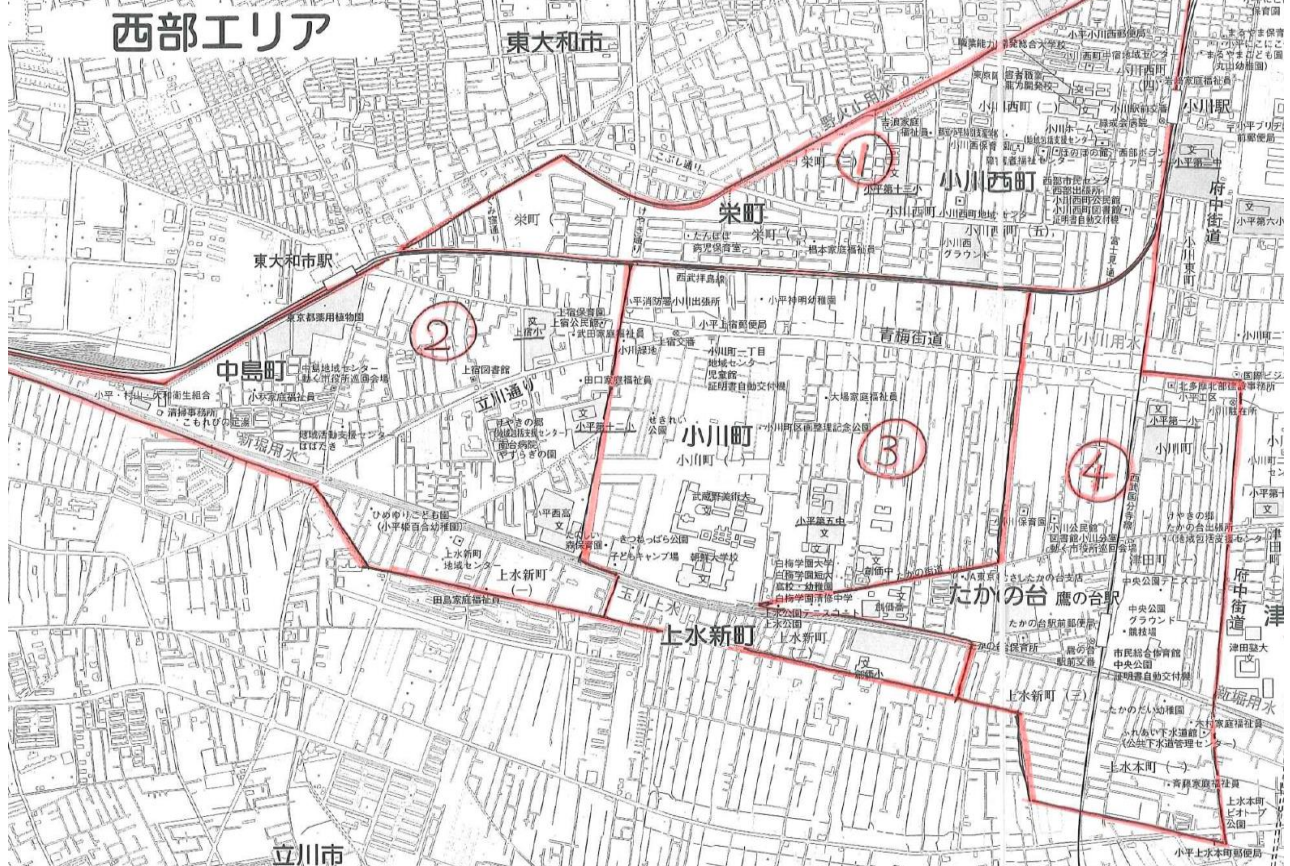
「小平西地区地域ネットワーク」ってどこなの？

小平西地区地域ネットワークができて4年が経過します。時々「小平西地区地域ネットワークってどこなの？」という声が聞こえてきます。新しく地域や職場に入ってきた人は言うまでもなく、時間が過ぎると意識しないとわからなくなってしまいます。

今回、頁にゆとりができたこともあり、西ネットの地図を載せることにしました。ちょっと小さくて見ずらいかも知れませんが、4つのブロックと合わせてご確認ください。基本的には府中街道から西側で、小学校の通学区で言うと、小平第13小、小平第12小、上宿小、小平第1小の範囲です。

この区域には創価小を加えて5つの小学校の他、4つの中学校(小平第二中学校、小平第五中学校、創価中学校、白梅清修中学校)、地域センターが5つ(小川上宿、小川西、中島町、上水新町、小川1丁目)、そして公民館が2つ(小川、小川西町)あります。その他に大学が大学校を含めて4つ(武蔵野美術大学、白梅学園大学・短期大学、朝鮮大学校、職業能力開発大学校)、児童館が1つあります。高校は白梅学園高校、小平西高校、創価高校、そして小平特別支援学校や小平市障害福祉センターもあります。

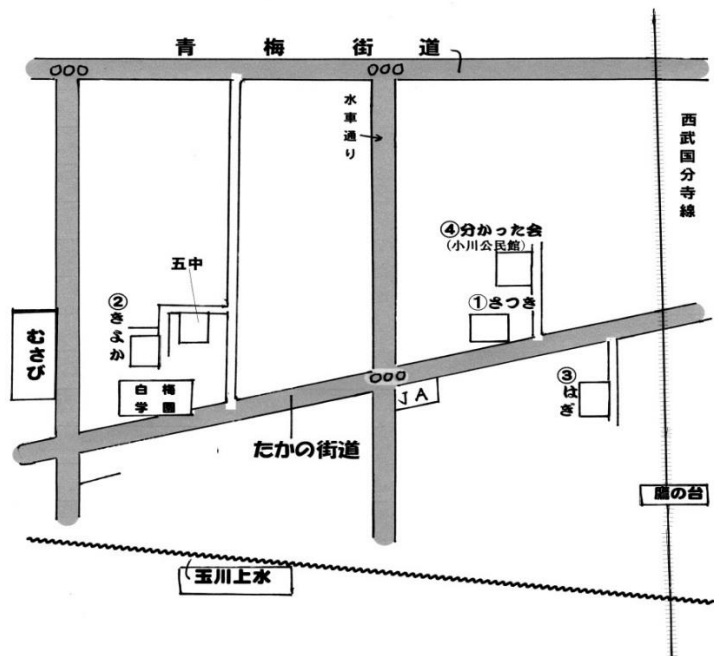
19 便利マップ



皆さん、コミュニティ・サロン(下の①~③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00~16:00
問合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
毎週月曜 10:00~15:30
問合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00
問合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738



④ 「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日 18:00~20:30 (小川公民館)

問合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)

TEL:090-4435-4306

イベントの予定

- 12 / 12 (土) 午後、一小青少対主催「モチツキ大会」
 / 19 (土) 自由遊びの会「もちつき」
 / 19 (土) 14:00 黎明ホール
 市民公開講座「認知症とともに、よりよく生きる」
 問合わせ☎: 042-346-6611
 / 26 (土) 「きよか」主催「もちつき」
 1 / 5~6 「きよか」で映画(認知症について)の撮影
 2 / 6 (土) 上宿小 「もちつき」
 / 7 (日) 白梅学園大学 教育福祉研究センター
 「介護福祉セミナー」

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦	瀧口 優・ 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・早田 満 芳井正彦	関谷栄子・土川洋子 成田弘子・吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・久保田進・穂積健児・杉浦博道	金田利子・草野篤子 瀧口眞央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良・長谷川・吉村

西ネットの今後の予定

学内会議: 1/12, 2/2, 3/1

世話人会: 2/16 (火)

懇談会: 3/12 (土)

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記: 「きずな」を読んでいただくと、西ネットの多彩さがわかります。各ブロックや、皆様の活動が活き活きと伝わってきます。今後もますますのご健闘を!!

原稿を寄せてくださった皆様、編集をしてくださった、T先生に感謝申し上げます。